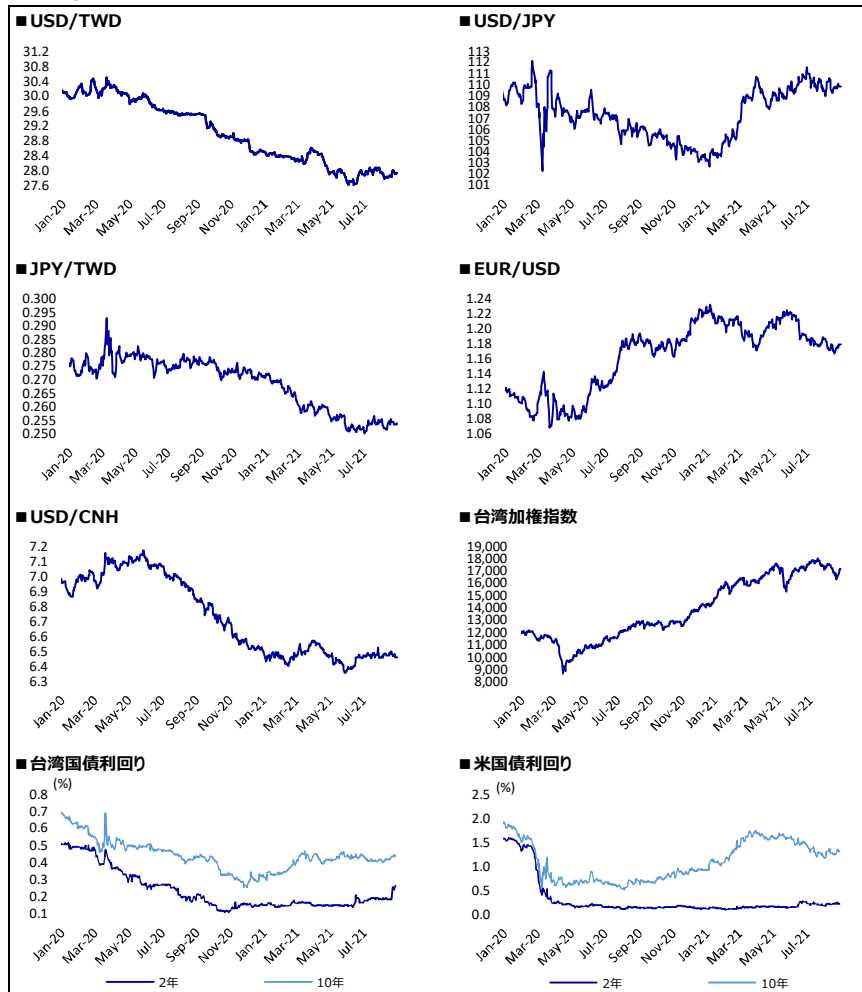


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初8/23は27.970でオープン後、台湾株が反発する中、じりじりと下落し、27.93付近まで下落したが、午後に入ると戻す展開となった。8/24も台湾株の上昇を受け、27.91付近まで下落したが外資が台湾株売りに転じると上昇するも、輸出企業のドル売りが上値を押さえた。8/25は月末の輸出企業のドル売りや台湾加権指数が17,000ポイント台に戻したことから台湾ドルは買われ、27.90付近まで下落。8/26はオープン後前日の流れから一時27.880まで下落したものの、外国投資家の台湾ドル売りで輸出業者のドル売りが交錯し、27.92付近で膠着した。8/27はジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演を控え、様子見の動きもあり、引き続き27.92付近で推移。最終的には先週比0.3%ドル安台湾ドル高の27.928で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は230.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初8/23は109.70でオープン。米長期金利の上昇や米株先物が堅調に推移したことを受け、110円台を回復したものの滞空時間は短く、ドル円は109円台後半に下落。8/24はジャクソンホール待ちで動意に乏しく狭いレンジで推移していたが、特段材料はない中、ドル売りが強まり、一時109.42まで下落。しかし、米株が堅調に推移する中、ドル円は戻し、再び109円台後半に。8/25は米7月耐久財が予想を上回ったことや米金利の上昇、米株の堅調な推移につられ110円台を回復したが、ジャクソンホールを控えており、さらなる上値を追う展開とはならなかった。8/26も様子見ムードが強く110円付近での推移が続いた。8/27はパウエルFRB議長の講演を前に米連銀総裁から相次いでテーパリングを支持する声があり、110.26まで上昇。パウエルFRB議長は講演で年内のテーパリングを示唆するものの利上げについては慎重な姿勢をみせたことから米長期金利が低下、ドル円もじり安の展開となり、最終的に先週比0.1%ドル高円安の109.85で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.800-27.970
先週のジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演はハト派な内容となったこともあり、今週は月末を控えてる控えている中、台湾ドル高となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.00-111.30
先週のジャクソンホールではパウエル議長は慎重な姿勢を見せたことから、今週はデルタ株の拡大状況や米経済指標への注目が集めるであろう。週末には米8月雇用統計を控えており、イベントまではまたレンジでの相場となるであろう。

今週の予定

8/30 (MON)	
8/31 (TUE)	米8月消費者信頼感指数
9/1 (WED)	米8月ADP雇用統計、ISM製造業景気指数
9/2 (THU)	米7月貿易収支
9/3 (FRI)	米8月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。